

令和5年2月1日

## 自主学修プログラム『injyanai?～いなかでの暮らし、 関わりを始めた人へ』の発行と「フルーツハーブティー」について

本学3年生4名、2年生1名が、相双地区での人口減少という課題を解決するため、「自主学修プログラム」として活動する川内村に関わる村民・関係者へインタビューを実施し、それらをまとめた小冊子『injyanai?～いなかでの暮らし、関わりを始めた人へ』を発行しました。取り組んだ学生は全員、1年時にコロナ禍の中フィールドワークをくり返し地域課題を学ぶ授業「むらの大学」を受講し、今年度も引き続き地域課題解決に取り組む活動をしました。

同時に、この小冊子でも掲載されています、川内村の休耕地でハーブを栽培し、「フルーツハーブティー」として商品化し販売する活動にも取り組んできました。

授業「むらの大学」は、1年生が南相馬市・川内村・大熊町の3地域に分かれ、フィールドワークをくり返して地域課題について学ぶ授業です。今回発表する学生5名は1年時に、川内村の「震災からの復興」や「地域づくり」について学びました。

2・3年生になった現在、川内村における「人口の減少」という地域課題を解決するため、川内村の地域づくりに貢献する方々にインタビュー調査を実施。インタビューをまとめたものを、小冊子『injyanai?～いなかでの暮らし、関わりを始めた人へ』として同時に小冊子にも掲載されている川内村の休耕地で栽培したハーブを「フルーツハーブティー」として商品化する活動にも取り組みました。

これらは、川内村での「いなか暮らしの魅力」をより具体的に発信し、同世代の若者へ相双地区での「地域と関わる新しい生き方の提案をする」取り組みです。

小冊子の名称：『injyanai?いなかでの暮らし、関わりを始めた人へ』  
ハーブ商品：Tea&Things(ブランド名)、フルーツハーブティー(商品名)

作成者：対馬 楓菜(つしま ふうな) 食農学類3年  
柴田 史音(しばた しおん) 共生システム理工学類3年  
沼田 健志(ぬまた けんし) 行政政策学類3年  
石田 未優(いしだ みう) 食農学類2年

デザイン：大類日和(おおるい ひより)氏・株式会社火種(田村市船引町)



# 「injyanai? いなかでの暮らし、関わりを始めた人へ」 の発行と 「フルーツハーブティー」について

福島大学自主学修プログラム 川内村に関わり隊

報告: 食農学類3年 対馬楓菜

# 本日の流れ

- 1 川内村に関わり隊とは
- 2 2022年度の主な活動内容
  - ・インタビュー冊子について
  - ・Tea & Thingsの活動について
- 3 来年度の活動について



➤2020年度の  
「むらの大学 川内村班」で活動した  
学生中心に結成。

→コロナ禍で例年のような授業内での  
フィールドワークができなかった

## 川内村に関わり隊とは



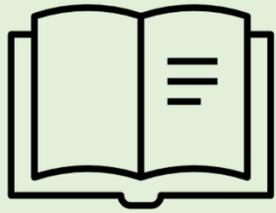
➤川内村に関わる活動を  
継続的に行うため「川内村に関わり隊」  
として活動開始。

➤今年度は3年生4名、2年生1名の  
計5名が中心となって活動に取り組んだ。

# 本日の流れ

- ① 川内村に関わり隊とは
- ② 2022年度の主な活動内容
  - ・インタビュー冊子について
  - ・Tea & Thingsの活動について
- ③ 来年度の活動について

# 2022年度の主な活動内容



インタビュー小冊子  
「injyanai?」  
の発行



Tea & Thingsの活動



# インタビュー小冊子 「injyanai?

いなかでの暮らし、関わりを始めた人へ」  
について



## ◎この冊子の概要

これまでの川内村の活動を通して、

長い間  
川内村で暮らす  
村民

村を一度離れたが  
もう一度  
村に戻ってきた方

ある活動を機に  
川内村に  
関わっている方

川内村に関わる頻度・手段が異なる5名にインタビューを実施。

立場・年齢・性別が異なるそれぞれの活動や今抱える想いをまとめた。

## ◎この冊子に込めた思い

### 現状

- 多様なライフスタイルが混在

### 誰に

- 進路に迷う学生
- 生き方に迷う人々

### どうやって

- 地域との関わりを生活に取り入れている人達の“今”を掲載

“地域と関わりのある生活”を知るきっかけ

「こんな生き方も“いんじゃない？”」と後押しできるような1冊

## ◎発行までの経緯

2022年 4月:企画開始                      5-9月:冊子のコンセプト設計  
          10月:取材、撮影                11-1月:執筆、推敲、校正  
1月29日:川内村現地報告会にて発表

- 福島大学
- 川内村役場及び村内各施設
- ふくしま12市町村移住支援センター
- NPO法人ふるさと回帰支援センター 等に配布予定

## ◎役割分担

- 学生5名:インタビューと執筆を担当
- デザイン:大類日和さん(株式会社火種)
- 協力者:大島草太さん(むらの大学OB・株式会社Kokage代表取締役)

## ◎私たちのこだわり

それぞれの記事で  
各項目の「見出し」が  
違う！

→担当者が聞いた内容を  
踏まえて決定！



### 両親の願いと進路。

生まれ育った川内村を離れ大学生になることを夢見ていた。しかし、一人っ子だったことに加え、「一度村外に行ってしまうたらもう戻ってこないのではないか。」と、懸念していた両親の反対で大学進学をあえなく断念した。そのため高校を卒業したら就職しなければならなくなる。両親の意向もあり家業の農家をしながらも目指したのは村役場の職員だった。「村外に出たい」という思いより「川内村を発展させたい」という村への愛が勝り、公務員試験に合格して村役場に勤めることとなった。

### やる気溢れる役場職員時代。

公務員となったものの具体的な夢を持っていたわけではなかった。だが、人に仕事の面では負けたくないという一心だった。「俺ならできる！俺に任せろ！」と自分の仕事に常に誇りを持ち、とにかくつ走った。そして、人と人の付き合いやコミュニケーションを大切にすることで、職場や地域の人達からの信望を得てきた。こうして係長から課長へとスピード出世で昇進していった。

### 全てが失われ得たあの日。

行政区の役員をして40年が過ぎ、平穏な日常を送っていた。しかし、【2011年3月11日】東日本大震災は何の前触れもなく突然起こった。当時総務課長として災害対応に取り組んでいたが、日が経つにつれ状況は暗転していき、様々な情報が錯綜している中、事態が深刻だと判断した川内村は、【2011年3月16日】全村避難を決定した。「川内村で仕事ができなくなる」「川内村から住民がいなくなってしまう」「いつ川内村に戻ってこれるかわからない」といった考えが頭を巡り涙があふれ出した。死を覚悟するも「体は小さいが気力と体力は誰にも負けない。」と自分に言い聞かせ、辛い状況の中、村長を補佐し続けた。

## ◎私たちのこだわり

その人の  
「日常を切り抜いた写真」  
で親しみやすく！  
→実際に活動している様子を  
イメージしやすい！



自分にできること。

村役場を定年退職した後、行政経験者として環境省に3年、福島発電株式会社3年、そして2018年に村が立ち上げた「かわうちらポ」に3年務め令和3年度末でかわうちらポの専務理事兼事務局長は辞任した。

だが、まだできることはある。

そう思い、新たな高齢者の生きがいと所得拡大のため、「ゴールド人材センター」を立ち上げ、現在もいきいきと輝けることをモットーに週3日は、かわうちらポに足を運んでいる。

2022年で69歳となり、前期高齢者もあと1年なので、そろそろかわうちらポからは身を引くつもりだが、それでも地域のため、人のためにできることはやっというと考えている。

全ては村への愛。

今は「復興」というより「村づくり」に移行している。「川内村を発展させたい」という思いを実現させるには村の活性化に繋がる交流人口の拡大事業が根幹となる。役人から村のおじいちゃんに立場が変わったとしても、村外から来る人達を迎えるおもてなしの心は変わらない。それはひとえに川内村への愛ゆえだ。フリーでほぼボランティアの状態でも仕事を続けているのは決してお金のためではない。村民には川内村に住んで良かったと思ってもらいたい。来村してくれた人には川内村を好きになってもらいたい。村への貢献と還元。「なんとか力になりたい」という思い。ただそれだけだ。

## ◎私たちのこだわり

「いい感じのヒトコト」  
がおもしろい！

→個性あふれる野望が書いてあります！



自分にできること。

村役場を定年退職した後、行政経験者として環境省に3年、福島発電株式会社で3年、そして2018年に村が立ち上げた「かわうちラボ」に3年務め令和3年度末でかわうちラボの専務理事兼事務局長は辞任した。

だが、まだできることはある。

そう思い、新たな高齢者の生きがいと所得拡大のため、「ゴールド人材センター」を立ち上げ、現在もいきいきと輝けることをモットーに週3日は、かわうちラボに足を運んでいる。

2022年で69歳となり、前期高齢者もあと1年なので、そろそろかわうちラボからは身を引くつもりだが、それでも地域のため、人のため

できることはやっていこうと考えている。

全ては村への愛。

今は「復興」というより「村づくり」に移行している。「川内村を発展させたい」という想いを実現させる為には村の活性化に繋がる交流人口の拡大事業が根幹となる。役人から村のおじいちゃんに立場が変わったとしても、村外から来る人達を迎えるおもてなしの心は変わらない。それはひとえに川内村への愛ゆえだ。フリーでほぼボランティアの状態でも仕事を続けているのは決してお金のためではない。村民には川内村に住んで良かったと思ってもらいたい。来村してくれた人には川内村を好きになってもらいたい。村への貢献と還元。「なんとか力になりたい」という想い、ただそれだけだ。

いい感じのヒトコト

「人や地域から好かれる【いいお前さん!】であることが夢かな〜と思います。」とおっしゃっていました。(かわいい)



# Tea & Thingsでの活動について



















協力者：大島草太(おおしま そうた)氏・福島大学「むらの大学」OB 株式会社  
Kokage・代表取締役

担当教員：狩野 剛（教育推進機構 特任助教）

発行部数：2000 部

配 布 先：川内村内の各公共機関や「コラッセふくしま」等を予定

※希望者は下記「ふくしま未来学事務局」までご連絡ください。

★本小冊子は（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」の成果物です。記事化の際はできる限り、同事業名をご紹介頂ければ幸いです。

★その他、ご不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

（お問い合わせ先）

福島大学ふくしま未来学事務局

電話：024-504-2850 / Fax：024-504-2849

メール：miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp